



毎月第3主日は日本キリスト教団の定めた「日本伝道の推進を祈る日」です

## 共に祈るために

全国17教区が取り組んでいる伝道の働きを2教区（東京は支区）ずつ紹介します。全国の教区・教会・伝道所を覚えて祈りをあわせましょう。

献金についての問い合わせは  
日本基督教団事務局まで（TEL 03-3202-0541）

### 日本基督教団伝道推進基本方針

- 祈禱運動 共に祈ろう
- 信徒運動 共に伝えよう
- 献金運動 共に献げよう

「日本基督教団全国伝道推進献金」  
振替口座 00140-7-293436

### 北海教区

北海教区わかものたちは、いつも主体的に活動しています。オトナが用意したプログラムにお付き合いでするのではなく、自分たちが何を大切なこととして考えるかを時間をかけて話し合い、高校生や青年自身がプログラムを作り上げていくのです。

それも、自分たちだけが楽しいことではなく、「新しく参加する人たちがどうやったら楽しめるか」を絶えず考えて企画しています。新しい出合いを喜び、つながりを大切にしようと心を伸ばしているのです。

北海教区では、ひとつの教会に中高生や青年が複数人いることは稀です。だから教区で出会うお互いの存在が励ましになるし、再会を心待ちにして出かけていくのです。

春から大学生になる一人が「中高生会でいろいろな教会に行ったことが楽しかった」と述べていました。心を外に向けて出合いを喜び、連帯していく。これが、北海教区がずっと大切にしてきた宣教の根幹であり、連帯の尊さは中高生や青年たちにもしっかりと受け止められています。昨年度の塗装&補修ワークでは、わかものたちが



2022年8月5日、6日に余市教会で開催された塗装&補修ワーク

交流を深めつつ、一緒に作業を行いました。たくさんのお会いや経験を得たわかものたちには、進学や就職で北海教区を離れる人も多くいます。都市部の教会につながることもあるでしょう。そんなときに思い起こしていただきたいのは、教会は痛みを持ってわかものを送り出していることです。

新しい季節を迎え、わかものたちが新しく教会へと足を運ぶことがあるかもしれません。そのわかものがイキイキと教会生活を送ることができるよう祈りをもってお支えください。同時に、その背後にあるたくさんの方の祈りや思いがあることにも思いを馳せていただきたいと願っています。

（余市教会牧師、北海教区連帯部門委員 西岡知洋）

### 奥羽教区

奥羽教区は青森、秋田、岩手の北東北3県にある57の教会・伝道所で構成されています。地方教区と言われる教区の中でも、奥羽教区が一番の特徴は、突出して規模の大きな教会が存在しないことです。

もちろん、県庁所在地の都市には複数の教会があります。けれども2021年度には、コロナ禍の影響もあってか、礼拝出席者数50人を超える教会は一つもありませんでした。

奥羽教区は成立当初から、小さな教会の集まりであることを大事にしてきました。互いを尊重しながら支え合い、力を出し合って共に歩もうと努力してきたのです。

そのことを象徴するのが、「一つなる教会」という言葉です。一つでは立のが困難な小さな教会が広い地域に点在し、つながって「一つの教会」として奥羽の地域に福音を掲げ続け、伝えていく。そのために「教区の教会性」ということを考え、工夫し、活動しています。

教区全体が一つの教会のように機能する。そのために問安が大事にされます。教区内の教会・伝道所だけでなく、関係学校・施設も含めて必要に応じて仕えていくため、また教区の責任において配慮し、助言と励ましを与えるために行われ、喜びや悲しみも共有し合います。

地域の教会同士の交流も緊密です。奥羽教区には北西地区（青森県西部）、北東地区（青森県東部と岩手県北部）、岩手地区（北部を除いた岩手県全域）、秋田地区（秋田県全域）という4つの地区があり、地区での交わりはもちろん、隣接した地域の教会同士の交わりが幾重にも築かれています。無牧師の教会の礼拝に地区内の教会が牧師を派遣すること、また教師の互助制度が申請ではなく給付として行われることにも、互いの信頼関係の深さが表れています。

（奥羽教区総会議長 小林よう子）

## 祈りの課題

### 奥羽教区

- 57教会・伝道所ならびに関係学校・関係団体・関係施設の宣教のために。
- 2019年に教団を離脱した木造教会（現・木造キリスト教会）との交わりが回復されるように。
- 連帯・互助のための教区の働きが伝道につながるように。

### 北海教区

- さまざまな活動をするわかものたちの歩みのために。
- 新しい歩みをはじめるわかものたちを支えられるように。



江刺教会、水沢教会、北上教会による3教会野外合同礼拝。北上市詩歌文学館の庭で